

Team チームの動き

赤潮発生するも、漁業被害はなし アユの新疾病や コイヘルペスウイルス病など発生

危機管理チーム

今夏は好天が続いたことから、県内海域では高塩分、高水温かつ低栄養塩な海域が形成されました。そのため、7月下旬には県西部ではカレンニア・ミキモトイによる赤潮、東部ではシャットネラ赤潮が増殖し、赤潮警報が発令されました。幸いなことに、その後の珪藻類の増殖等で、数週間でこれらの赤潮は消失し、漁業被害は発生しませんでした。

疾病の発生状況についてのトピックスは、河川のアユからエドワジエラ・イクタルリが検出されたことです。昨年度も検出されましたので、チームでは病原性について感染実験等を行っています。その結果、原因菌のアユに対する病原性は、それほど強くないことがわかってきました。今後、より詳細に病態の解明を進めたいと思います。また、今年も河川や養殖場でコイヘルペスウイルス病の発生がありました。

キジハタの生産 1KLあたり2千尾達成！

地付き魚生産チーム

地付き魚生産チームでは7月から水産総合研究所玉野栽培漁業センターよりキジハタの受精卵を受け入れ、種苗生産試験に取り組んでいます。昨年度は仔魚期特有の斃死が発生するステージの絞込みを行い、大量減耗期に対して希釈海水飼育が有効であることを明らかにしました。今年度はその結果をもとに量産水槽で実証試験を行っています。まだまだ途中経過ですが、体長20mmにおける水槽1kLあたりの生産量は約2200～3400尾に達しました。(全国的にもトップレベル)

また試験生産されたキジハタ稚魚は35～40mmになるまで当センターで中間育成後、放流要望の高い呉市豊島地区を中心に漁業者の手によって放流される予定です。



キジハタ
稚魚
(全長40mm)

養殖期間の長い筏ほど落ちかきが多く、

海底への負荷大

かき養殖適正化研究チーム

江田島湾のかき養殖筏から海底への負荷量のうち落ちかきによる影響を把握するため、筏に直径2mの落下物捕捉用の装置を1週間設置して、ここに落下した落ちかきを回収しています。養殖を開始してまもない筏から1年以上経過した筏まで養殖期間の異なる3種類の筏を対象に年4回の調査を実施しています。写真は今年5月13日から20日の間に捕捉された落ちかきです。これらの写真から養殖期間の長いかきほど落下しやすいことがわかります。



新しい養殖カゴを求めて

一粒かき養殖研究チーム

最終年度も残り半年、「崖っ淵のポニョ」という幻聴が耳につくようになりました。実際、この場に及んで研究用のかき稚貝の確保に苦労するなど苦難の道が続いています。一方で、新しい養殖カゴの開発に品質工学を導入する試みや、かごの試作について企業からの提案を受けるなど明るい材料も出てきつつあります。

また、かきの味の特性の把握についてはいよいよ試験シーズンを迎え、身入り期における漁場の餌環境との関連の調査を開始する予定です。



付着物で目詰まりを起こした養殖かご

蓄養による付加価値向上をめざして

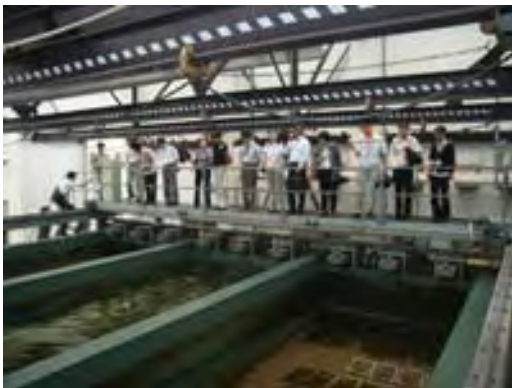
蓄養技術開発研究チーム

メバルやオニオコゼなど地先定着種の蓄養技術などによる付加価値の向上をめざして、県内各地のニーズを収集するとともに、技術開発の事前研究を進めています。

トピックス

保有技術研修会 ～ 水技センターの技術を紹介 ～

6月20日、総合技術研究所の研究員に対し、当センターの技術や設備を紹介しました。



浅海実験棟の干潟水槽の見学

地球温暖化の影響？

沼田川上流の椋梨川で陸封アユ大量遡上

6月中旬、沼田川漁協から、椋梨ダム（白竜湖）の上流にダム湖で再生産したと思われるアユが大量にいるとの情報が寄せられました。

ダムが完成した直後の昭和40年代には、淡水魚指導所の調査で確認されて、その後ほとんどみられなかったのですが、地元の人によると、年によってみられるとのことで、昨年秋、子持ちアユが取れたとの情報もありました。最近では、灰塚ダムの上流をはじめとして、いろいろなダム湖での情報が寄せられています。また、隣の岡山県や山口県のダム湖でも陸封アユの遡上が確認されています。

陸封アユの発生する条件としては、

- ① 冬季水温が4℃以上の水塊があること。
 - ② ふ化仔魚や稚魚を食べてしまう生物が分布しない。
- など、がいられています。

白竜湖は、バス釣りで有名ですが、最近の温暖化により、冬季の水温が①の条件をクリアできたことが大きいのかも知れません。

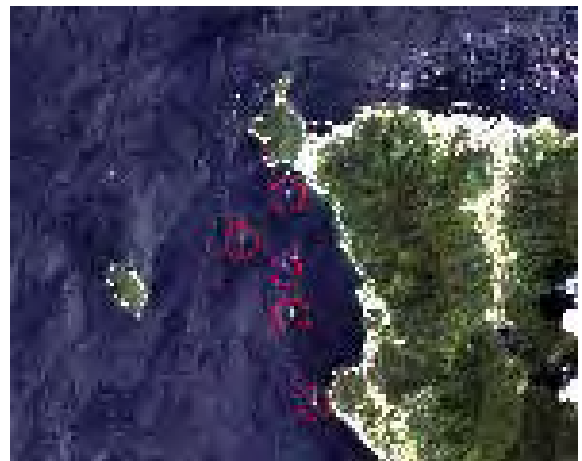
岡崎部長 日本食品工学会で 産学連携賞を受賞

8月6日東京水産大学品川キャンパスで開催された日本食品工学会において、産学連携賞をいただくことができました。食品工業技術センターで実施した「タンパク系素材の圧力酵素分解技術の開発」（H13～15年度）の成果及びこの成果を基にして装置が開発されたことが受賞の理由とされました。装置化されたことで、県有特許「調味料の製造技術」（特許第3475328号）がますます活用しやすくなると思います。水技Cでもこの技術を「かきの魚醤油」に活用できないか考えているところです。この技術と装置がこれからますます広島県の産業に少しでも役立っていくことを期待しております。



衛星から確認された採苗筏の移動

7月10日地球観測衛星「だいち」によって黒神漁場へ採苗筏を移動させている様子が宇宙から確認されました。



提供：宇宙航空開発機構陸地観測技術衛星「だいち」（ALOS）センサ AVNIR-2 08.07.10 撮影 赤丸で囲った部分が曳航中の筏